

南魚沼市自転車活用推進計画

(自転車ネットワーク計画)



2021年6月

新潟県南魚沼市

— 目次 —

1	はじめに.....	1
1—1	計画策定の背景と目的	1
1—2	計画区域と計画期間	2
1—3	計画の策定体制	2
1—4	計画の策定過程	3
1—5	計画の位置づけ	4
1—6	上位・関連計画等におけるまちづくりの方向性	5
1—7	S D G sに対する考え方	6
2	南魚沼市と自転車	7
2—1	本市の概況	7
2—2	本市の現状	7
2—3	本市の自転車活用推進により期待される効果	12
2—4	本市における課題	13
3	基本目標	14
4	目標達成のための具体施策	15
4—1	自転車活用の推進に必要な基盤づくり	15
4—2	自転車に優しいまちづくり	18
4—3	安心して自転車に乗れるまちづくり（自転車ネットワーク計画）.....	22
5	計画目標の達成状況の評価	30
5—1	計画の推進体制	30
5—2	今後のスケジュール	31
5—3	P D C Aサイクルによる評価・検証	32
5—4	目標指標（K P I）.....	32

1 はじめに

1—1 計画策定の背景と目的

世界的な気候変動の深刻化に伴い、地球温暖化対策への関心が高まっており、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すうえでも、地球温暖化対策は喫緊の課題である。家庭から排出される二酸化炭素の約3割が自動車から排出されていることから、短中距離の自家用車利用を、公共交通機関の利用との組み合わせを含めた自転車の利用へ転換することが必要となっている。

また、東日本大震災その他の近年の大規模災害において、ガソリン不足や交通渋滞が課題となる中で、自転車が有効な移動手段として活用されている。大規模災害時における地域の安全・安心を向上させるには、自転車が有する機動性を活かすため、多様な人が安全・快適に利用することのできる自転車の普及促進が必要となっている。

一方、高齢化とともに要介護者数等も年々増加しており、メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームの予防等による健康寿命の延伸が大きな課題となる中、自転車は適正な運動強度を維持しやすく、脂肪燃焼等への効果や生活習慣病の予防が期待されている。その実現に向けては、手軽に運動できる自転車を活かし、身近にスポーツの楽しさや喜びを日常的に味わうことのできる環境づくりを進めることが求められる。加えて、これらの環境整備をサイクルツーリズム等に導き、地域経済にもたらす効果を高めながら持続可能で安全・安心な自転車活用のまちづくりを進めていく必要がある。

国では、自転車の活用による環境負荷の低減、災害時における交通機能の維持、国民の健康増進等を図ることなど新たな課題に対応するため、交通の安全の確保を図りつつ、自転車の利用を増進し、交通における自動車への依存の程度を低減することによって、公共の利益の増進に資すること等を基本理念とする「自転車活用推進法（平成28年法律第113号。以下「法」という。）」が平成29（2017）年5月に施行された。

この基本理念に加え、自転車の活用の推進に関する総合的かつ計画的な推進を図るため、法第9条に基づき、我が国の自転車の活用の推進に関して基本となる「自転車活用推進計画」が平成30（2018）年6月に閣議決定された。

新潟県では、令和3（2021）年3月に「新潟県自転車活用推進計画」が策定され、県全体として自転車活用を推進する方針が示された。

本市では、平成21（2009）年トキめきにいがた国体でのロードレースを皮切りに、平成24（2012）年のインターハイロードレース、平成26（2014）年からスタートした「南魚沼サイクルフェスタ」等の自転車に関する取組が継続的に行われている。

また、令和元年（2019）年10月には、自転車を活用したまちづくりの推進を目的とする官民連携組織「R I D E O N 南魚沼プロジェクト実行委員会」が設立された。

本計画は、これらの国、県、市内の動向を踏まえ、自転車交通を意識した人と環境にやさしいまちづくりの推進、自転車を利用したスポーツの推進や健康寿命の延伸、地域の魅力を体感できるサイクルツーリズムの促進、自転車に関する安全・安心の確保等、自転車の活用を総合的かつ計画的に推進することを目的として定めるものである。

1－2 計画区域と計画期間

(1) 計画区域

本計画の計画区域は、南魚沼市全域とする。

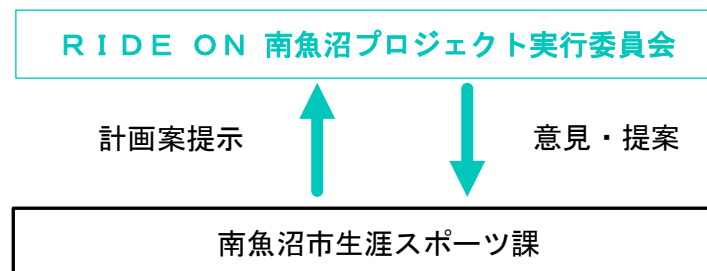
(2) 計画期間

市の目指すべき将来像を定めた上位計画である「第2次南魚沼市総合計画」の計画期間を踏まえ、本計画の計画期間を令和3（2021）年度～令和7（2025）年度の5年間とする。

1－3 計画の策定体制

本市では、令和元（2019）年10月に企業、スポーツ団体、観光団体及び行政等により構成される「RIDE ON 南魚沼プロジェクト実行委員会（以下、「実行委員会」という。）」を設立し、官民連携による自転車を活用したまちづくりの推進に取り組んでいる。

本計画は、南魚沼市生涯スポーツ課が計画案を作成し、実行委員会での議論や提案、先進地の事例等を踏まえ策定した。



【計画の策定体制】



【実行委員会の様子】

1－4 計画の策定過程

年 月 日		項 目	内 容
令和元年 (2019)	10 月 11 日	実行委員会総会	これまでの取組について 今後の進め方について
	11 月 19・20 日	先進地視察	先進地の取組調査
	12 月 17 日	実行委員会総会兼部会	現状と課題について 取組提案について 部会選定について
令和 2 年 (2020)	3 月 5 日	実行委員会部会	目標設定について
	6 月 30 日	実行委員会総会 有識者講演会	取組提案について 企業の取組について
	7 月 28 日	実行委員会部会	取組提案について 取組主体について
	10 月 1 日	実行委員会総会兼部会	目標・指標について 具体的な取組について 実施スケジュールについて
	10 月 25 日	有識者による サイクリングルート視察	モデルルートの選定調査
	10 月 26 日	有識者による 講演会の開催	全国の取組について 地域に特化した取組について ルート選定について
令和 3 年 (2021)	3 月	実行委員会総会兼部会	計画内容について
	4 月	実行委員会部会	計画及び概要版について

実行委員会：R I D E O N 南魚沼プロジェクト実行委員会

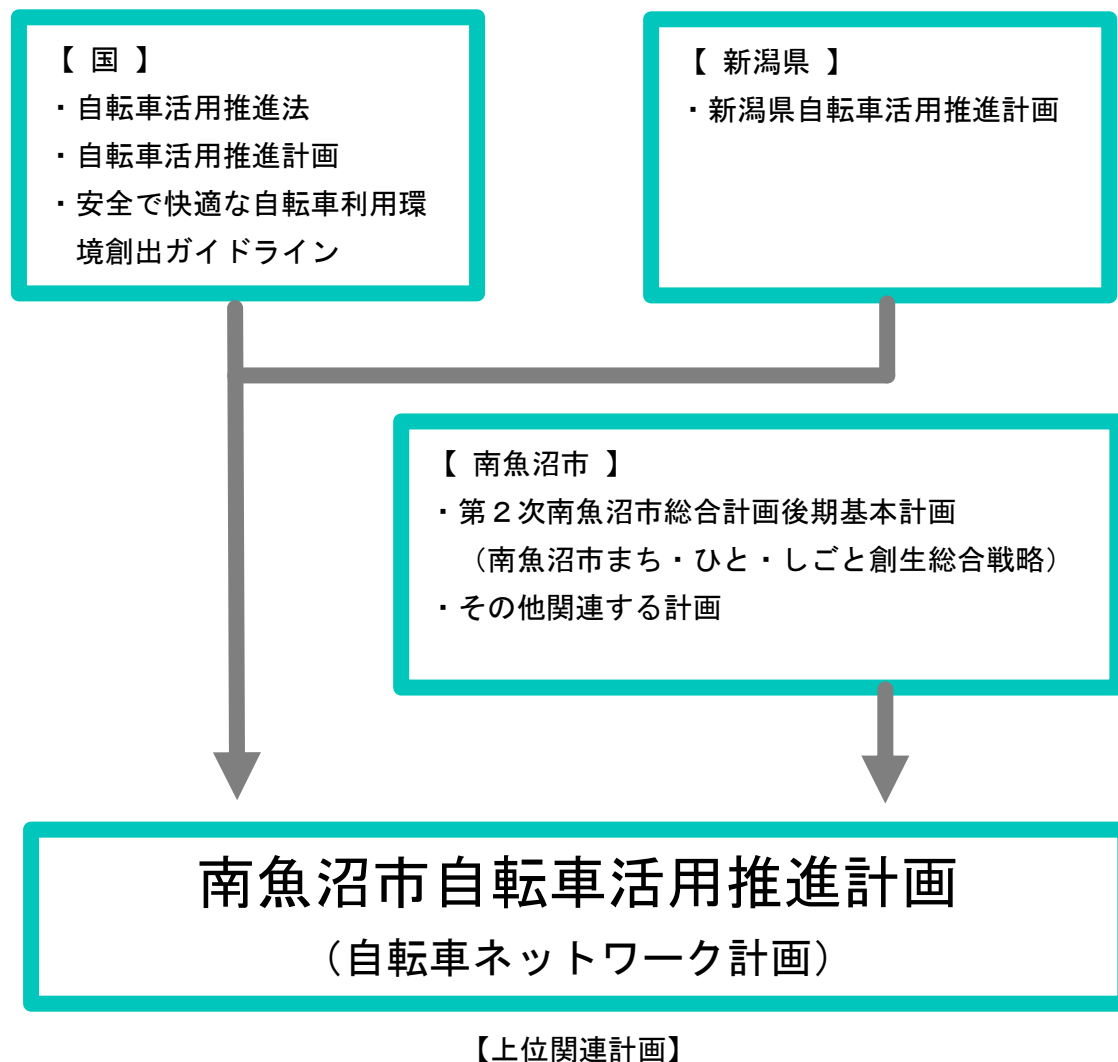
【計画の策定過程】

1-5 計画の位置づけ

本計画は、「第2次南魚沼市総合計画」との整合を図りつつ、長期的な展望のもとに、自転車活用推進の目的を達成するために具体的な目標、施策を位置づけるものである。

また、施策の推進においては、本市の将来像である「自然・人・産業の和で築く安心のまち」を実現するため、南魚沼市まち・ひと・しごと創生総合戦略を包含して策定された「第2次南魚沼市総合計画後期基本計画」（計画期間：令和3年度から令和7年度）の各施策との連携による相乗的な効果の向上を目指し、包括的な視野に基づき実施する。

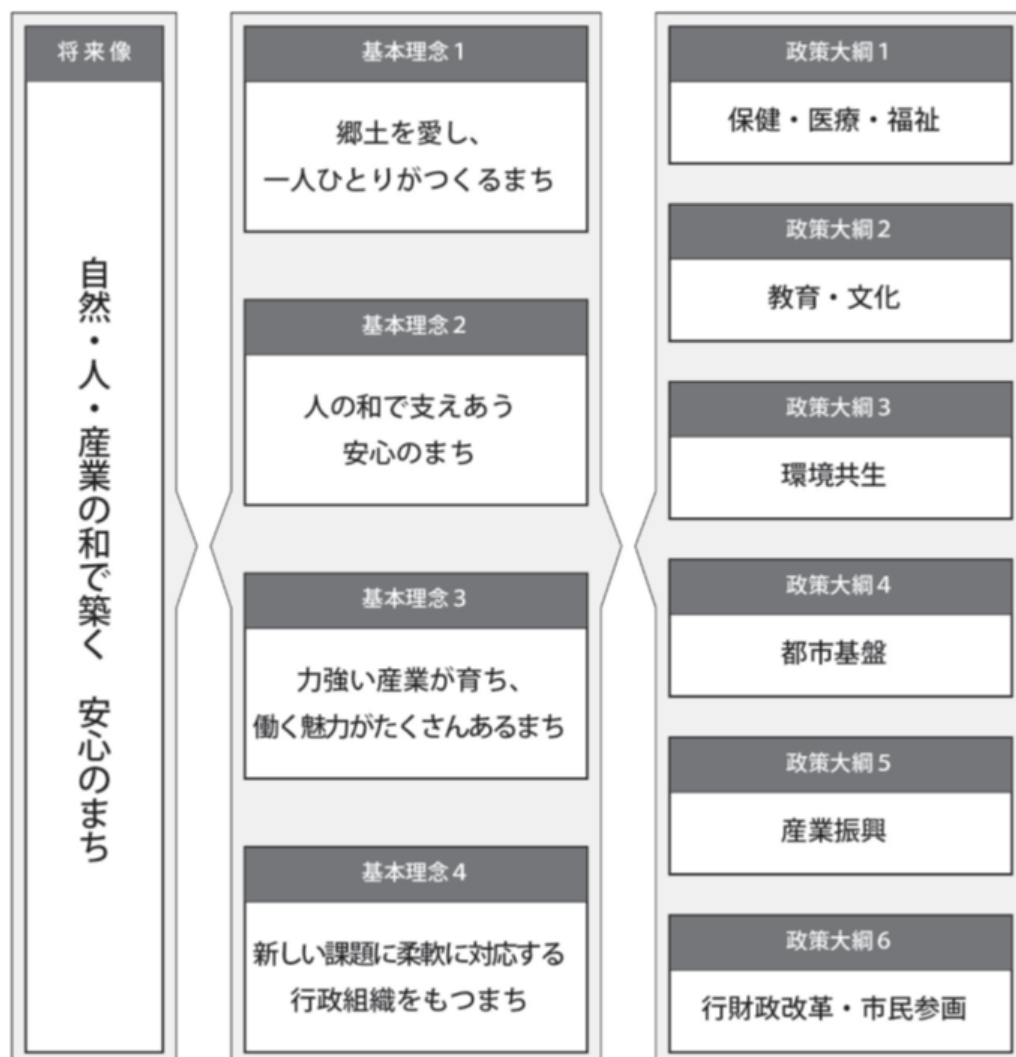
なお、本計画は、法第11条第1項に基づく、市町村自転車活用推進計画として定めるものである。



1－6 上位・関連計画等におけるまちづくりの方向性

本市が目指す将来像（第2次南魚沼市総合計画の概要）

項 目	内 容
計画期間	2016 年度～2025 年度
将来像	自然・人・産業の和で築く 安心のまち
将来像実現のための基本理念	(1) 郷土を愛し、一人ひとりがつくるまち (2) 人の和で支えあう安心のまち (3) 力強い産業が育ち、働く魅力がたくさんあるまち (4) 新しい課題に柔軟に対応する行政組織をもつまち
まちづくりの目標	【保健・医療・福祉】 地域ぐるみでつくる健康・福祉・子育てのまち 【教育・文化】 学ぶ喜び・文化をはぐくむ喜びのあるまち 【環境共生】 豊かな自然を守り、そして共に生き、100年後に引き継いでいくまち 【都市基盤】 住みたい、住み続けたいまち 【産業振興】 豊かな自然を活かし、自然や人にやさしく力強い産業のまち 【行財政改革・市民参画】 世界にひらく市民が誇りをもてるまち



【第2次南魚沼市総合計画の概要】

1-7 SDGsに対する考え方

平成27（2015）年9月の国連サミットにおいて、国際社会全体の普遍的な目標である2030年までの持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals エスディージーズ）が採択された。

これを受けて、国は平成28（2016）年に「SDGs実施指針」を決定した。この指針では、人口減少などの課題解決のためにSDGsを原動力とした地方創生を推進することが、地方自治体の役割として期待されている。

本市においても、地方創生の推進に向けて、本計画にSDGsの要素を反映して分野横断的に取り組むとともに、SDGsを介した官民連携による地域課題の解決を一層推進させることが必要である。



【SDGsにおける17のゴール（目標）】

2 南魚沼市と自転車

2-1 本市の概要

本市は、新潟県南部の魚沼盆地に位置し、太平洋側と日本海側を結ぶ交通の大動脈が集中している。関越自動車道や上越新幹線などの高速交通によるアクセスは大変便利で、ＪＲ上越線やほくほく線に加え、現在整備が進められている上越魚沼地域振興快速道路とともに交通結節点としての役割を果たすとともに、物流面、人材面の新しい流れが期待されている。

交通アクセスの利便性向上に伴い、スキー観光地として観光産業基盤の充実が進むとともに、通勤・通学圏は、新潟市近郊はもとより関東圏にまで拡大しており、民間投資や企業の立地・集積が進んでいる。

また、地域ブランドとして全国的に高い評価を受けている南魚沼産コシヒカリを中心とした農林業の振興、新たな起業への支援と優良企業の誘致をさらに進め、若者が定住し安心して働けるまちづくりを行っている。

四季折々の彩り豊かな自然景観と自然環境に恵まれた山紫水明の地として、グリーンシーズンは、坂戸山や八海山、巻機山などへの登山をはじめ、屋外スポーツやレクリエーションが盛んであり、ウインターシーズンは、スキー、スノーボードや温泉などへの観光客で賑わう。

また、四季を通して産業観光や豊かな食文化を求めて訪れる観光客が多く、地域資源を生かした多彩な交流の拡大により、一層の発展、飛躍が期待されている。

2-2 本市の現状

本市の人口は、平成 7（1995）年の 66,118 人をピークに人口が減少し、平成 27（2015）年には 58,568 人となった。また、少子高齢化も進んでおり、総人口に占める 65 歳以上人口の割合は 29.2%となっている。

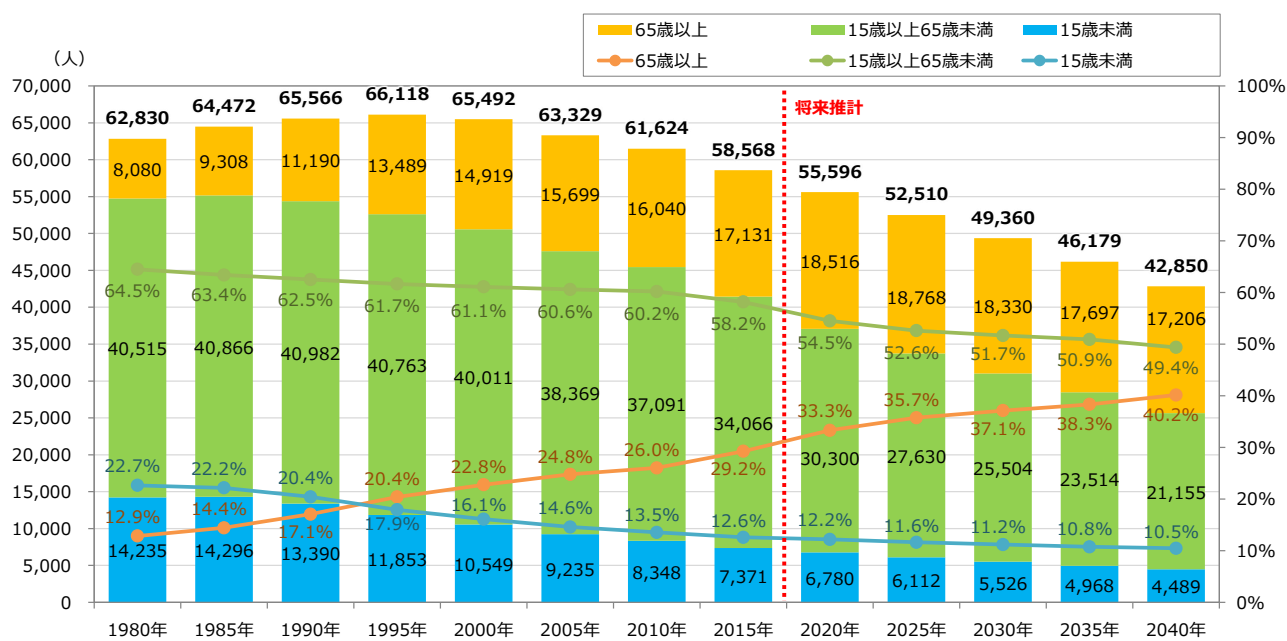
人口の分布は、六日町、浦佐、塩沢の鉄道駅周辺が多くなっているが、市域の広い範囲に小規模の集落が点在しており、中心部から離れた地域で生活している人も多くみられる。

交通では、通勤、通学、買物などの交通手段として自動車の利用がおよそ 8 割を占める一方で、自転車の利用は 1 割に満たない状況であり、日常的に自動車の利用に依存しているといえる。

観光面においても、市内周遊や点在する観光資源と鉄道駅を繋ぐ公共交通が少なく、自動車で移動する観光客の割合が高い状況である。

また、当市では自転車に関するイベントを官民連携で継続的に実施しているが、１年間にサイクリングを実施した人は 1 割に満たず、市民の自転車に関する関心は依然として低い状況であるといえる。

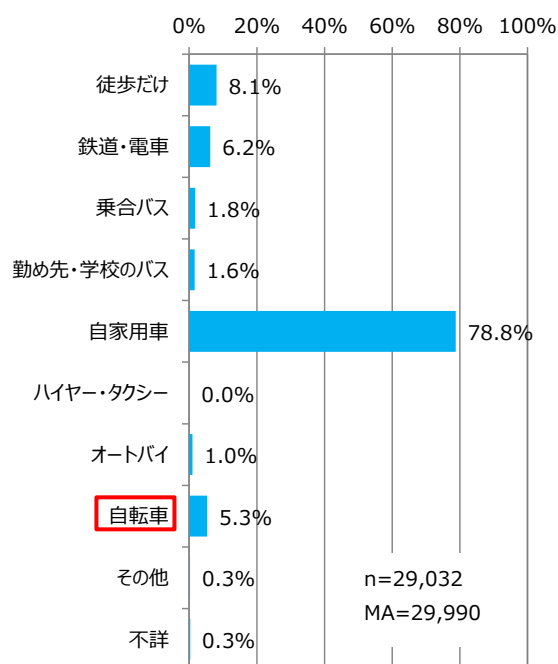
- ・年齢3区分別人口割合は、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）は減少を続けており、一方で老年人口（65歳以上）は増加を続けている。
- ・国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の「日本の地域別将来推計人口」によると、このまま推移した場合、2040年には本市の総人口は約1.6万人減少し、高齢化率は40%に達することが予測されている。



【年次別年齢区分別人口】

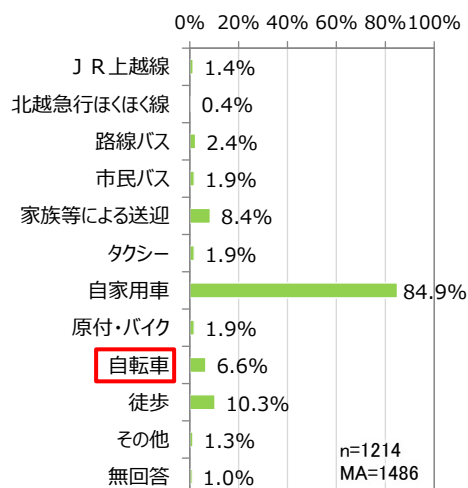
資料：国勢調査（1980～2015年）、社人研推計値（2020～2040年）
 ※2000年以前は旧六日町・旧大和町・旧塩沢町の合計
 ※年齢不詳を含まない

- ・南魚沼市に在住する通勤・通学者の利用交通手段は、自家用車が78.8%と最も多く、2番目に多い徒歩だけが8.1%と大きく差が開いている。このことから南魚沼市に住むほとんどの人が自家用車で移動しているという状況が把握できる。
- ・公共交通については鉄道・電車が6.2%、乗合バスは1.8%と低くなっている。



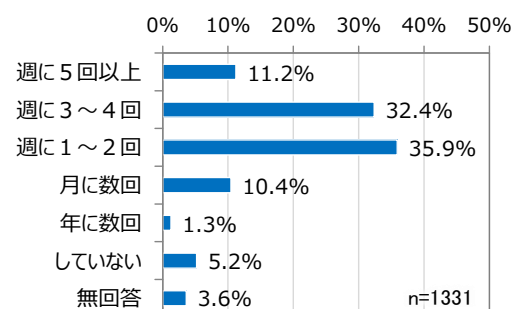
【通勤・通学の利用交通手段（南魚沼市在住）】
 資料：国勢調査（H22）住人回答者数、MA：複数回答数

- ・南魚沼市に在住する人の買い物（日用品や食料品）での移動は、近くの都市拠点（六日町駅周辺、浦佐駅周辺、塩沢駅周辺）や地域拠点（石打駅周辺、五日町駅周辺）に向かう移動が多く、各集落から市街地に移動して買い物をしている状況が見られる。
- ・また、市の北部に位置する浦佐地区、東地区、藪神地区、大崎地区では魚沼市方面に向かう移動も見られる。



【買い物（日用品や食料品）の交通手段】

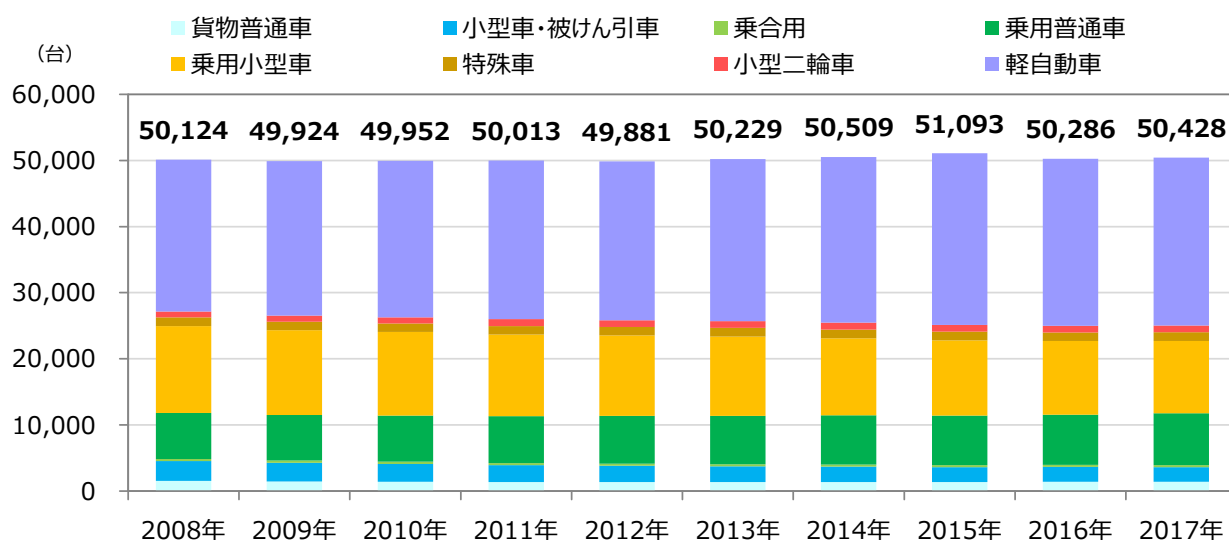
資料：市民アンケート（R1） n：回答者数、MA：複数回答数



【買い物（日用品や食料品）の回数】

資料：市民アンケート（R1） n：回答者数

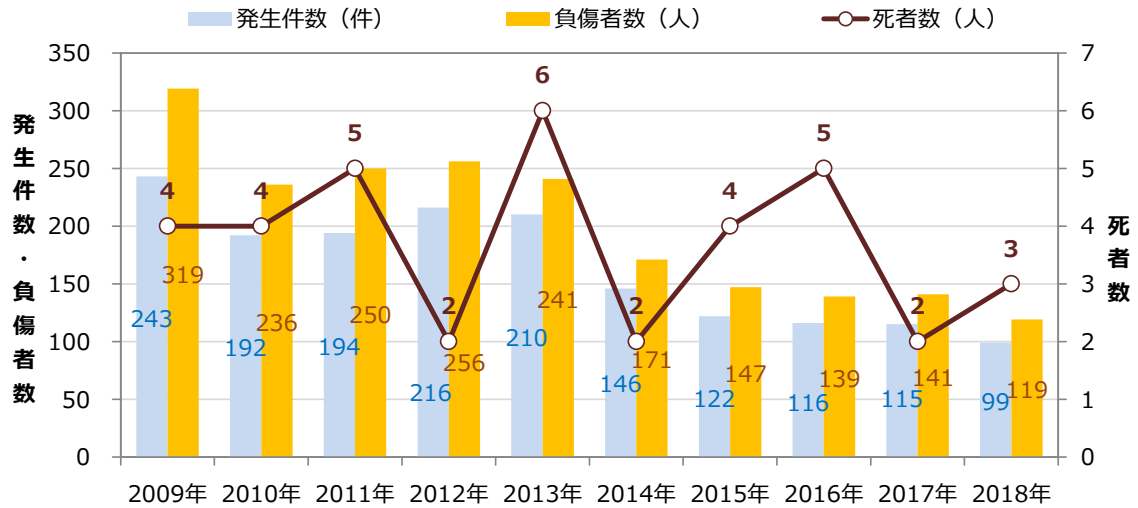
- ・南魚沼市における自動車保有数は2008年からほぼ横ばいで、およそ5万台で推移している。
 - ・保有車種は軽自動車の比率が高く、全体の数の約半数が軽自動車となっている。
- また、全体に占める軽自動車割合は年々微増しており、乗用小型車などに減少が見られる。



【自動車保有車両数の推移（南魚沼市）】

資料：新潟県統計年鑑

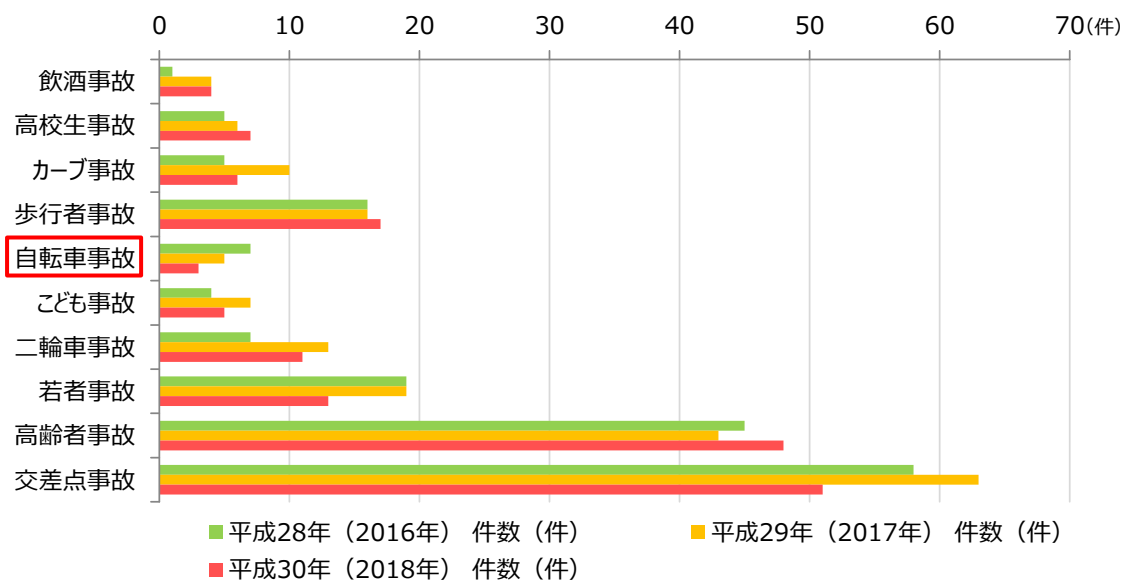
- ・南魚沼市における交通事故は減少傾向にあり、2009 年は 243 件であったのに対し、2018 年は 99 件と半数以下まで減少している。
- ・2018 年の負傷者数は 119 人、死者は 3 人となっている。



【事故発生状況の推移（南魚沼市）】

資料：新潟県警察

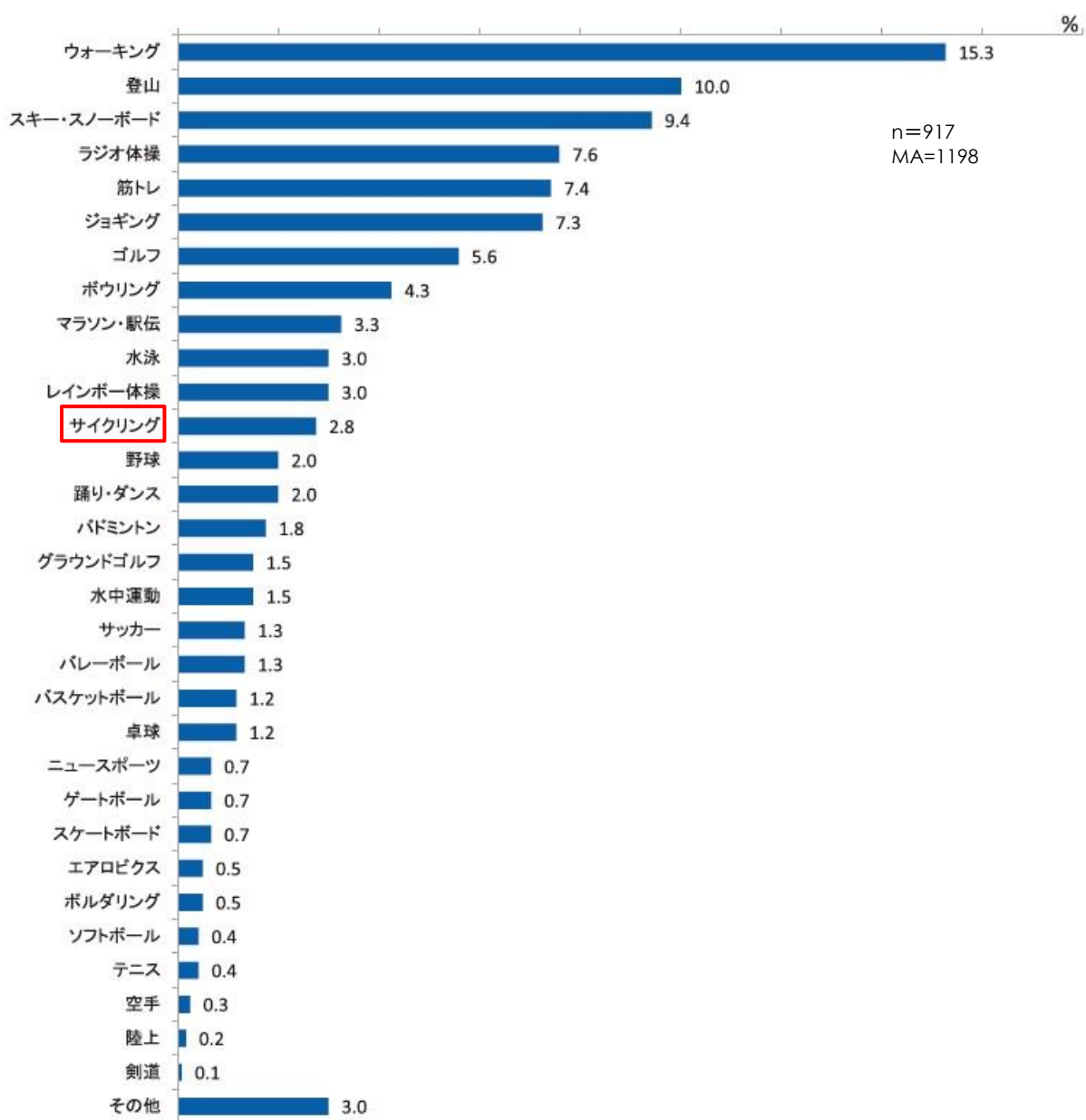
- ・南魚沼市における事故発生状況は交差点における事故が最も多くなっているが、高齢者が関与する事故も多く、2016 年～2018 年の 3 年間それぞれ 40 件を超えている。
- ・前項より 2018 年の交通事故発生件数は 99 件であることから、2018 年に発生した交通事故の半数近くは高齢者が関与した事故となっている。
- ・自転車事故は、減少傾向にある。



【特定事故発生状況の推移（3 か年）（南魚沼市）】

資料：新潟県警察

- ・ウォーキングやジョギング、筋トレなど、1人で取り組めるスポーツの実施率が高い。
- ・また、登山やウインタースポーツなど、屋外スポーツの実施率も高い状況である。



【1年間に実施したスポーツ（南魚沼市）】

資料：市民アンケート（H28）n：回答者数、MA：複数回答数

2-3 本市の自転車活用推進により期待される効果

自転車は環境にやさしい交通手段であるだけでなく、サイクリングを通じた健康づくりやレクリエーション等の余暇の充実、友人や家族、地域におけるコミュニケーションを広げるツールとして、老若男女が生活の中に取り入れられる乗り物である。

本市においても、サイクルスポーツの振興による健康長寿社会の実現と、サイクルツーリズムの推進による交流人口の拡大に加え、自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成により、安心安全な住みやすいまちづくりが期待される。

- ・幅広い世代の交通手段の確保
- ・自転車や人にやさしい道路整備
- ・災害時の移動手段の担保
- ・ルールやマナーの向上

- ・心身の健康づくり、余暇の充実
- ・生活習慣病の予防
- ・健康寿命の延伸
- ・自転車を通じた新たな交流



- ・環境への負担軽減
- ・環境保全への意識啓発
- ・自転車を活用した自然体験、教育

- ・観光客の移動手段の確保
- ・新たな視点での観光商品開発
- ・点在する地域資源の回遊
- ・広域連携、企業間連携

【自転車を軸としたまちづくりのイメージ図】

2-4 本市における課題

前述のように自転車を活用したまちづくりには様々な効果が考えられる一方、その推進に際して、本市においては次に示すような課題が見受けられる。

課題1 自動車利用への依存

生活における交通手段が自動車の利用に偏ることにより、生活習慣病の増加や体力の低下といった利用者の健康への影響に加え、環境への負荷の増大、化石燃料への依存といった問題がある。

本市では、通勤、通学、買物などの交通手段として自動車の利用率が高く、日常的な自転車の利用機会が少ない状況にある。

また、今後さらなる高齢化が見込まれるなか、免許証返納者も増加していくことが想定され、交通手段の確保が課題となっている。年齢を重ねた時の歩ける身体づくりに資するためにも、健康に関する市民の理解力を高め、手軽に利用できる自転車を取り入れた運動習慣者の割合を増加させる必要がある。

課題2 自転車の受入環境

自転車の活用が可能な豊富な地域資源がある一方、そうした資源を活かすために必要となる基本的な自転車の受入体制の整備が不十分な状況にある。

自転車に乗りやすい環境づくりには、自転車で通勤しやすい環境整備や、必要となる駐輪場整備などのハード面に加え、サイクリストの受入体制や、自転車利用の視点によるコンテンツの磨き上げや魅力づくりなどソフト面の取組が不十分なため、これらを含めバランスの取れた総合的なサイクリング環境の整備が課題となっている。

課題3 安全性の担保

自動車利用の多い本市では、自転車通行を想定した道路整備が行き届いていないため、安全安心な走行環境の提供が不十分な状況にある。

また、自動車、自転車、歩行者等のそれぞれの立場における交通ルールやマナーの啓発が行き届いていないため、障害者を含めた多様で幅広い年齢層が快適に自転車を利用できる安全教育や環境創出の工夫などソフト面での安全対策も必要である。

3 基本目標

本計画では、本市の現状と課題に対応するため、自転車の活用と推進に向けた基本目標を次のとおり定める。

目標 1 サイクルスポーツの振興による健康長寿社会の実現

日常生活での自転車の役割やスポーツにおける自転車利用の拡大を推進し、心身の健康づくりや、健康寿命の延伸等を目指す。

また、幅広い年齢層の人が生涯スポーツとして自転車を楽しめるよう、利用機会を創出し、運動習慣化を目指す。

目標 2 サイクルツーリズムの推進による交流人口の拡大

自転車で地域を巡り、沿線の魅力を楽しむ体験型、交流型旅行の促進や、各種自転車関連イベントの開催等を通じた観光地域づくりを推進し、自転車を活用した地域の活性化を目指す。

また、サイクリスト受入のための環境整備や情報発信による交流人口の拡大を目指す。

目標 3 自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成

高齢者をはじめ幅広い年齢層の交通手段として、地域の公共交通や自転車のベストミックスを目指し、過度に自動車に依存しない人と環境にやさしい交通体系への転換を図る。

また、誰もが安心して快適に自転車を利用できる環境づくりを行うことで良好な都市環境の形成を目指す。

4 目標達成のための具体施策

4-1 自転車活用の推進に必要な基盤づくり

自転車活用の推進を継続して行うためには、関係機関と調整を図るとともに、計画に沿って主体的に事業を進める組織の設立や、関連する民間団体及び事業者等の活動支援など、基盤づくりを進める必要がある。

取組 1 官民連携組織の設立

本市では、行政、民間団体、事業者、市民の力を集結し、自転車を軸にスポーツの力と地域資源の活用による地域活性化に挑戦する官民連携組織として、「RIDE ON 南魚沼プロジェクト実行委員会」が令和元年（2019）10月に設立された。

実行委員会において本計画の推進及び進捗状況の管理を行うものとする。



【RIDE ON 南魚沼プロジェクトのPRロゴ】

取組 2 広域連携組織の設立

自転車活用の推進を効果的かつ効率的に進めるためには、国が取り組むナショナルサイクルルートの指定も視野に、魚沼地域に点在する地域資源を自転車で結ぶモデルルート^{（注）}の形成や、官民連携による地域全体でのプロモーション活動など、広域連携によるスケールメリットを活かした自転車施策の展開が必要となる。

そのため、「魚沼地域定住自立圏」の構成市町である湯沢町、南魚沼市及び魚沼市をはじめ、道路管理者や自転車に関連する市民団体等で構成する広域連携組織として、「湯沢町・南魚沼市・魚沼市連携自転車活用推進協議会」を令和3年（2021）3月に設立し、2市1町の範囲をもって連携しながら自転車施策を推進することとした。

また、平成30年（2018）に本市が加盟した全国組織、「自転車活用推進したまちづくりを推進する全国市区町村長の会」との連携も継続し、積極的な情報交換を行う。



【設立総会の様子】

左から湯沢町長、南魚沼市長、魚沼市長

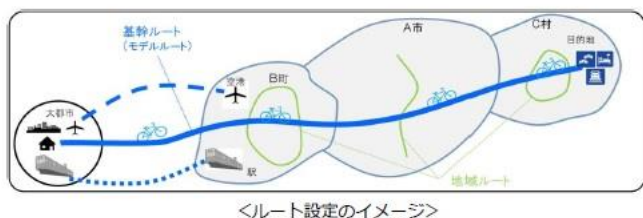
モデルルートの取り組みの内容

- 課題** ● 民間組織等によるサイクリスト向けの拠点づくりや、観光コンテンツづくりが動き出しつつある一方、サイクリストの走行ニーズが高い道路について、走行環境が必ずしも十分整っていない等、サイクリング環境に課題。
- 取組方針** ● 走行環境整備、サイクリストの受入環境整備、魅力づくり、情報発信について、官民連携して取り組み、サイクリストのニーズに応える、インバウンドにも対応した高いサイクリング環境の創出を目指す。

■モデルルート設定の考え方

- 複数の市町村に跨がる等、広域的なルートであるか
- サイクリストを惹きつける魅力や、価値創造の素地があるか
- サイクリストの支援に向けて、地域の関係者の協力が得られるか

	基幹ルート	地域ルート
特徴	市町村をまたぐような骨格となるサイクルート	(基幹ルート周辺の) 地域の短距離のサイクルート
コンセプト	空港や駅、大都市と目的地を結び、安全・安心に移動できる(案内や休憩等施設が整っている)	基幹ルートから離れているビューポイントなど、隠れた地域資源を楽しめる



■サイクリング環境向上策の例



＜道の駅のサイクリング拠点化＞



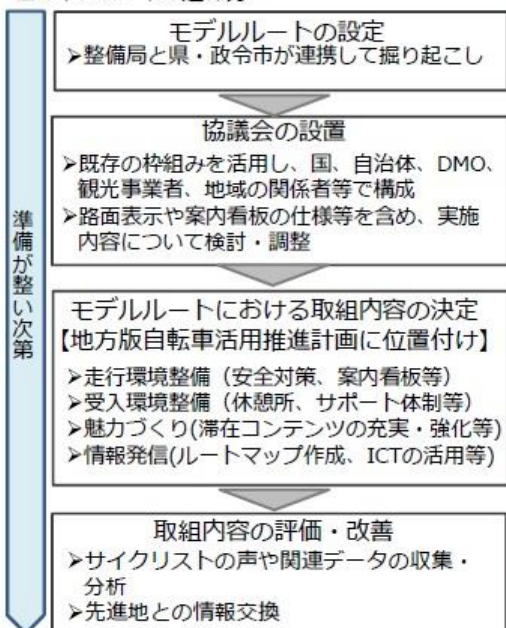
(サイクルトレイン・サイクルバスを含めたアクセス方法、コース難易度、レスキューサービス、ガイドツアー、交通ルール等、サイクリストの視点に立った情報発信(多言語対応))

サイクルツーリズムの推進(モデルルート)

資料3-1

○官民の関係者等で構成される協議会において、複数の市町村に跨がる広域的なサイクリングルートを設定し、走行環境や受入環境の整備、情報発信等を行うモデルルートの取組を推進。2020年3月末までに56ルートが設定済。この他、約30ルートで検討中。

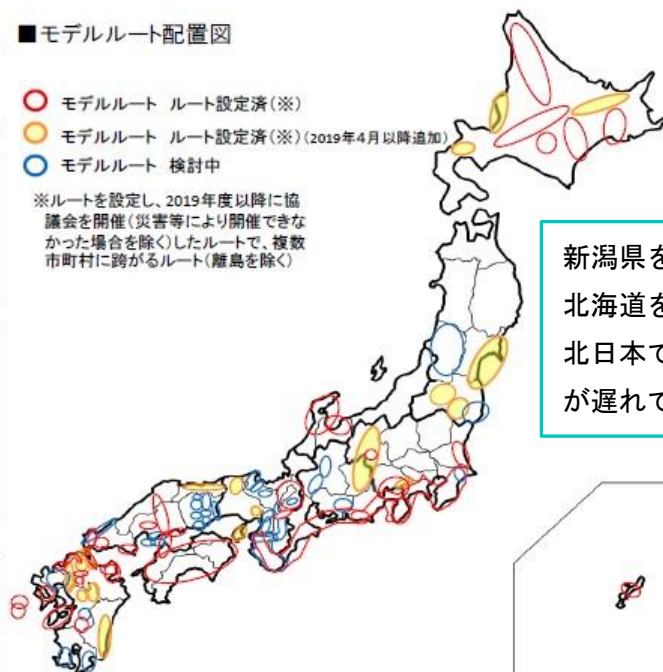
■モデルルートの進め方



■モデルルート配置図

- モデルルート ルート設定済(※)
- モデルルート ルート設定済(※)(2019年4月以降追加)
- モデルルート 検討中

※ルートを設定し、2019年度以降に協議会を開催(災害等により開催できなかった場合を除く)したルートで、複数の市町村に跨がるルート(離島を除く)



新潟県を含め、北海道を除く北日本での取組が遅れている。

【全国的なモデルルートの取組】

取組 3 民間団体及び事業者等の活動支援

本市には、長年地域の自転車普及促進活動や関連イベントの運営や協力を行っている「南魚沼市サイクリング協会」をはじめ、食と自転車の連携によるイベント（グルメライド）の開催や、プロのロードレース誘致など自転車を活用した地域活性化に取り組む「南魚沼サイクルフェスタ実行委員会」等の民間団体がある。

八海山麓サイクリングターミナルでは、市内外から有志が集まり、スキー場を活用したマウンテンバイクコース「八海山麓MTB PARK」の制作、管理及びイベント開催等の取組を行っている。

近年では、全国的に観光面における自転車の活用（サイクルツーリズム）も注目されており、市内でも電動自転車の貸出や自転車を利用したツアー等を行う事業者が現れている。

また、自転車店や総合型地域スポーツクラブによる教室やイベント等の取組も実施されている。

本市では、このような民間団体や事業者の活動を支援するとともに、本計画での位置付けや役割を明らかにしながら、継続的な自転車活用の推進を図る必要がある。



【南魚沼市サイクリング協会】



【南魚沼サイクルフェスタ】



【八海山麓MTB PARK】



【サイクルツーリズムの取組】



【新潟県自転車軽自動車商協同組合】



【総合型地域スポーツクラブ】

4-2 自転車に優しいまちづくり

本市は四季を通じて豊かな自然環境や産業観光資源に恵まれており、自転車への活用が可能な豊富な地域資源がある一方、基本的な受入体制や地域理解が進んでいないことから、それらの資源を十分生かしきれていない。関係機関や民間団体と連携して日常的な自転車利用の利便性の向上を図り、身近で手軽に自転車を利用できる環境整備を計画的に進めながら、自転車に優しいまちづくりと地域資源を活用したサイクルツーリズムを構築する。

また、市民や事業者が自転車と関わる機会を増加させるため、安全・快適な自転車利用について情報発信や広報活動を実施する。

取組 1 サイクステーションの整備

公共施設や民間のコンビニエンスストア、飲食店、宿泊施設等と連携し、自転車に乗る市民や観光客にとって快適な環境づくりを目指す。

本市では、令和2年（2020）からサイクルステーションの整備を開始し、コンビニエンスストア等を中心に市内30か所に設置が完了している。

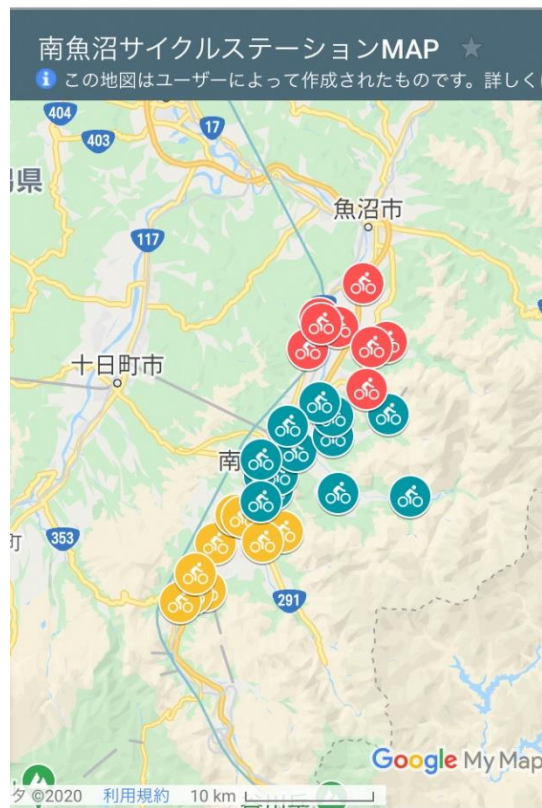
サイクルステーションでは、自転車利用者へ駐輪スペース、トイレ、空気入れの貸出を行っている。今後は飲食店や宿泊施設等と連携し、設置箇所の拡充や施設への持込方法等を検討する。



【サイクルステーションの設置】



【旅館内への持込（先進地事例）】



【WEBサイトへの情報掲載】

取組 2 レンタサイクルの普及

本市では、観光向けレンタサイクルの取組が観光事業者によって進められており、鉄道駅や宿泊施設からの二次交通としての役割を担っている。

今後は、通勤や業務など日常生活で利用できる市民向けレンタサイクルの設置や、スポーツタイプの自転車やマウンテンバイクのレンタルなど、多様な利用者が様々な目的で利用できるような環境整備を推進する。



【レンタサイクル（里山ミニクル）の取組】

取組 3 サイクリングガイド育成及びサイクリングアプリの活用

サイクルツーリズムを推進するため、レンタサイクルの取組に合わせ、本市の魅力を自転車で感じてもらうガイドツアーを実施する。自転車で本市の魅力を感じてもらうためには、道案内ばかりではなく、地域の文化や歴史を語れるサイクリングガイドが必要となるため、人材の発掘や育成を行う。

また、少人数でのツアー開催や、1人で好きな時にサイクリング観光や散策を楽しめるよう、先行事例などを参考にしながらサイクリングアプリの活用も検討する。



【里山サイクリング（飛騨市）】

資料：現地視察



【いばらきサイクリングサポートライダー】

資料：茨城県



**音声で、文章で、写真で、映像で、
五感で感じるトラベルガイド**

VOIDE（ヴォイド）は、新潟県南魚沼市から発信されるVOICE（音声）+GUIDE（ガイド）の新しい観光メディアです。GIS（地理情報システム）またはQRコードを起点に始まる、南魚沼の物語を、お楽しみください。そして、その物語を実際に体験することができます。ヴォイドは、あなたを物語の世界へ導きます。

【観光音声メディアの取組（VOIDE）】

BIWAICHI Cycling Navi

もっと楽しいびわちをサポートする滋賀県公式アプリです。
県内のオススメ観光スポットやモデルコースなど、いろいろな楽しみ方を紹介します。

プランニング

行きたいスポットが決まったら、どのくらい時間がかかるのか情報を確認できます。

ナビゲーション

途中を感じる要路モードやまっすぐ目的地にのるか、最短ルートを選んでくれます。

観光ガイド

びわちの様々なスポットを、食べる・観光・自然・歴史、などのテーマや観光コースで紹介しています。

BIWAKO + CYCLING



わたしは、いま、
旅をしています。

【サイクリングアプリの活用】

資料：滋賀県

取組４ サイクルレスキューの体制構築

自転車の故障などにより走行困難になった場合に、搬送や簡単な修理作業などに対応できる救援救護体制を自転車店や自転車関連団体、交通事業者等と連携して構築する。

また、サイクルステーションでの、タイヤチューブや消耗品の販売等も検討する。



【サイクルレスキュータクシー】

資料：横須賀市



【しまなみ島走レスキュー】

資料：NPO法人シツリズムしまなみ

取組 5 自転車関連情報の発信及びイベントの推進

本市では、官民連携によるスポーツ&アクティビティ情報総合サイト「南魚沼スポーツクリエイターズ」の運用を令和2年（2020）から開始した。このサイトを活用し、市内及び近隣自治体の自転車情報や関連する食や温泉、アウトドア情報などをセットにした質の高い情報発信を行うとともに、SNSの活用、広報資料（ガイドマップ等）の作成、専門誌への情報掲載等に取り組み、市民だけではなく、全国的なプロモーションを展開し、交流人口の拡大を図る。

また、魅力的なサイクルイベント（南魚沼サイクルフェスタ等）の継続的な開催による知名度向上を図るとともに、自転車以外のイベントや大会との連携による新しい人の流れの創出と、地域内の自転車活用への理解を促進する。



【ウェブサイトの活用による情報発信】



【サイクリングマップの活用による情報発信】



【南魚沼サイクルフェスタ（グルメライド）】
自転車と食、地域の連携



【欠之上スノーフェスティバル】
スキー大会とストライダー大会の連携



【御朱印ライド】
自転車と寺社、歴史の連携

4-3 安心して自転車に乗れるまちづくり

本市では、自転車^{（注）}が安全に走行できる環境が整備されておらず、交通ルールやマナーの啓発も不十分なため、ハード、ソフト両面からの対策が必要である。点在する観光施設や地域資源を効果的に取り込んだサイクリングコースを設定し、安全で快適な走行空間の整備に努めるとともに、交通マナーや自転車の安全教育を推進する。

取組 1 自転車ネットワーク計画の策定及び計画的な整備の推進

市内に点在する観光資源や施設をつなぐ広域サイクリングルートを選定や、日常交通のネットワークを構成する路線の選定など、安全で快適な自転車走行環境整備を推進するため、「南魚沼市自転車ネットワーク計画」を本計画に位置付ける。

自転車ネットワーク計画路線については、湯沢町・南魚沼市・魚沼市が連携して取り組む広域サイクリングルート（モデルルート）を骨格とし、国、県、近隣自治体等と連携した整備を進める。

上記モデルルートについては、県内初のサイクルツーリズム推進モデルルートとして令和３年度中の設定を予定しており、将来的には国が取り組むナショナルサイクルルートの指定を目指している。

なお、今後は観光面に限らず、自転車の通勤通学時の利用状況なども調査した上で更新を図る。

整備手法の具体例として、交差点など案内を必要とする箇所にサイクリングコースの路面表示や案内看板を設置するとともに、舗装のクラック等の補修などを行うことで、安全で快適な自転車走行環境整備を推進する。

また、スピードの速い自動車との混在による危険区間については、地元住民や警察と協議し、交通規制の在り方を検討する。



舗装損傷箇所の応急対策

【適切な維持管理の実施（アワイチ）】

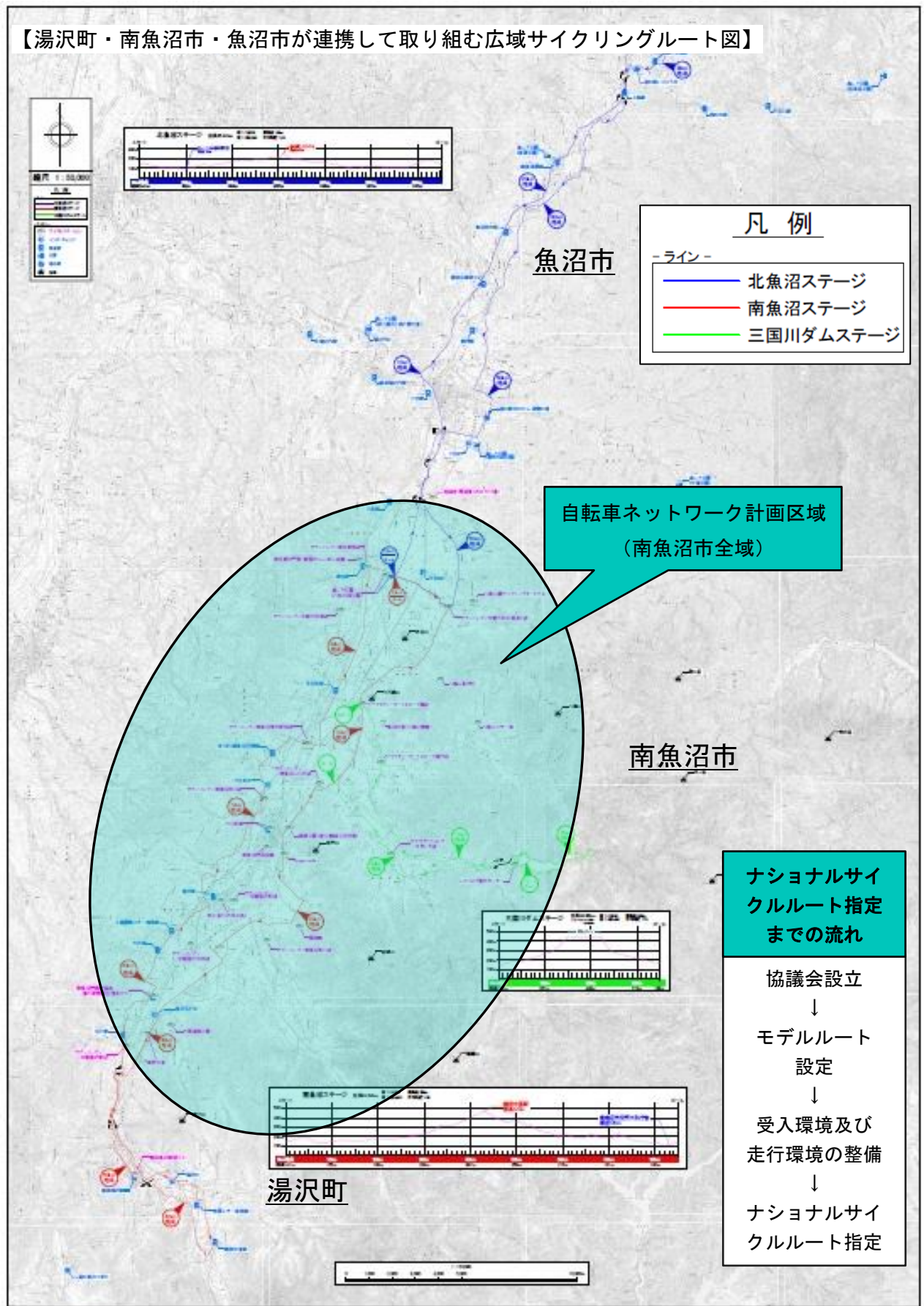
資料：兵庫県

【降雪地域における取組（トカプチ 400）】

資料：北海道

南魚沼市自転車ネットワーク計画路線図

【湯沢町・南魚沼市・魚沼市が連携して取り組む広域サイクリングルート図】



【南魚沼市自転車ネットワーク計画路線一覧 No.1】

No.	ステージ名称	道路種別	路線番号	路線名
1	北魚沼ステージ	その他市道	143202	雷土新田12号線
2	北魚沼ステージ	一般県道	502	大桑原芋赤線
3	北魚沼ステージ	その他市道	143201	山崎新田・雷土新田線
4	北魚沼ステージ	一般国道	291	国道291号
5	北魚沼ステージ	一級市道	111004	浦佐黒土新田線
6	南魚沼ステージ	一級市道	111004	浦佐黒土新田線
7	南魚沼ステージ	一般国道	291	国道291号
8	南魚沼ステージ	一級市道	211002	西泉田東泉田線
9	南魚沼ステージ	一般県道	434	大月六日町線
10	南魚沼ステージ	一級市道	211001	上大月線
11	南魚沼ステージ	主要地方道	28	塩沢大和線
12	南魚沼ステージ	二級市道	332001	三郎丸雲洞線
13	南魚沼ステージ	その他市道	343001	三郎丸小木六線
14	南魚沼ステージ	二級市道	342007	小木六古川線
15	南魚沼ステージ	一般県道	235	沢口塩沢線
16	南魚沼ステージ	その他市道	343040	古川木六島線
17	南魚沼ステージ	その他市道	343049	大木六徳田線
18	南魚沼ステージ	二級市道	342001	仙石中野線
19	南魚沼ステージ	その他市道	343006	徳田五十嵐線
20	南魚沼ステージ	主要地方道	28	塩沢大和線
21	南魚沼ステージ	その他市道	343006	徳田五十嵐線
22	南魚沼ステージ	一級市道	341003	関山姥島線
23	南魚沼ステージ	一般国道	17	国道17号
24	南魚沼ステージ	その他市道	323036	関山湯沢線
25	南魚沼ステージ	一般国道	17	国道17号
26	南魚沼ステージ	二級市道	322005	関・関山線
27	南魚沼ステージ	主要地方道	28	塩沢大和線
28	南魚沼ステージ	一般県道	451	石打停車場塩沢線
29	南魚沼ステージ	その他市道	323018	一日市2号線
30	南魚沼ステージ	一般国道	17	国道17号
31	南魚沼ステージ	その他市道	323102	一日市1号線
32	南魚沼ステージ	一般国道	17	国道17号
33	南魚沼ステージ	二級市道	322001	君沢線
34	南魚沼ステージ	一般県道	451	石打停車場塩沢線
35	南魚沼ステージ	二級市道	322002	大沢君沢線

【南魚沼市自転車ネットワーク計画路線一覧 No.2】

No.	ステージ名称	道路種別	路線番号	路線名
36	南魚沼ステージ	一般県道	451	石打停車場塩沢線
37	南魚沼ステージ	一級市道	311001	島泉盛寺線
38	南魚沼ステージ	その他市道	311009	桶渡東西線
39	南魚沼ステージ	主要地方道	82	十日町塩沢線
40	南魚沼ステージ	その他市道	313227	塩沢西山北山線
41	南魚沼ステージ	その他市道	313215	吉里南線
42	南魚沼ステージ	一般県道	124	余川塩沢停車場線
43	南魚沼ステージ	主要地方道	74	十日町六日町線
44	南魚沼ステージ	一般国道	253	国道253号
45	南魚沼ステージ	一般県道	521	欠ノ上五日町線
46	南魚沼ステージ	一般県道	214	城内焼野線
47	南魚沼ステージ	農道		大巻線
48	南魚沼ステージ	一般県道	234	桐沢麓五日町停車場線
49	南魚沼ステージ	二級市道	222009	五日町ターミナル線
50	南魚沼ステージ	二級市道	122012	九日町欠之下線
51	南魚沼ステージ	二級市道	122011	九日町浦佐線
52	南魚沼ステージ	一級市道	111005	芹田・北島線
53	南魚沼ステージ	主要地方道	28	塩沢大和線
54	南魚沼ステージ	一級市道	111004	浦佐黒土新田線
55	三国川ダムステージ	主要地方道	28	塩沢大和線
56	三国川ダムステージ	その他市道	243047	深沢南線
57	三国川ダムステージ	その他市道	243095	深沢小川線
58	三国川ダムステージ	その他市道	243014	小川村下線
59	三国川ダムステージ	一級市道	241001	小川清水瀬線
60	三国川ダムステージ	一般県道	233	落合六日町線
61	三国川ダムステージ	ダムサイト		三国川ダム
62	三国川ダムステージ	二級市道	242001	清水瀬落合線
63	三国川ダムステージ	一般県道	233	落合六日町線
64	三国川ダムステージ	一級市道	241002	京岡畔地線
65	三国川ダムステージ	一般県道	554	蛭窪京岡線
66	三国川ダムステージ	主要地方道	28	塩沢大和線
67	三国川ダムステージ	農道		五十沢線
68	三国川ダムステージ	その他市道	243067	津久野工業団地1号線
69	三国川ダムステージ	農道		五十沢線
70	三国川ダムステージ	二級市道	242019	津久野下新田線

※その他、鉄道駅、観光施設及び商業施設等からモデルルートへのアクセス道路について、自転車ネットワーク計画路線として整備を推進する。

取組２ 多様な自転車が楽しめるコース選定及び環境の整備

自転車ネットワーク路線の整備に留まらず、本市の自然豊かな環境や地域文化を活かして、幅広い年齢層の自転車利用者や多様な自転車が楽しめる地域ルートを選定し、マウンテンバイクやヒルクライムスポット等との結びつきや情報発信を積極的に進める。



【魚沼スカイライン】
ヒルクライムスポット



【八海山麓MTB PARK】
マウンテンバイクスポット



【八海山麓サイクリングターミナル】



【水無川サイクリングロード】



【三国川ダム周回（国体コース）】



【まちなかサイクリング（牧之通り）】

取組 3 自転車安全教育及び利用の推進

安全に自転車に乗るために重要となる交通ルールやマナー教育を、自転車の利用者だけではなく、自動車のドライバーや歩行者等へも幅広く安全教育を推進する。

自転車安全教育及び利用の推進にあたり、令和2年度から本市で実施しているランニングバイク（ストライダー）事業と連携し、幼児から高齢者まで幅広い世代から自転車への理解と、交通安全への意識を持っていただける取組を継続して実施する。

また、自転車での通勤や業務利用を拡大するため、国が創設した『「自転車通勤推進企業」宣言プロジェクト』等の取組も推進する。



【自転車安全利用五則】

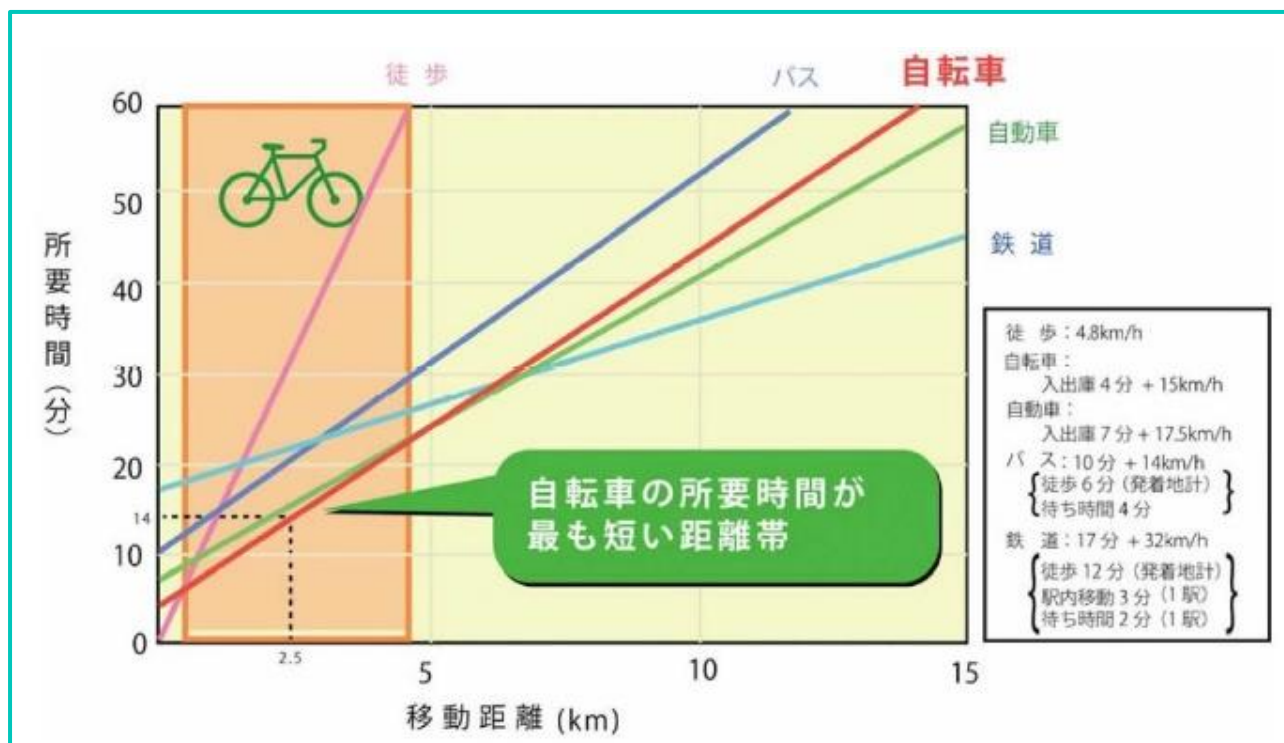
資料：（一社）全日本交通安全協会・警察庁



【幼児期からの自転車教育（市内保育園）】



【多世代参加型のイベント開催】



【交通手段別の移動距離と所要時間の関係】

資料：自転車活用推進官民連携協議会

自転車通勤者は、心血管疾患やがんに罹るリスクや死亡リスクが低下する [イギリスの研究結果]

昨年発表された英国グラスゴー大学における研究

研究代表：グラスゴー大学 Jason M R Gill reader
 公表：ブリティッシュ・メディカル・ジャーナル 2017年4月19日号掲載
 研究手法：コホート研究
 対象：263,450人の英国在住の通勤者（男性48%、女性52%、平均年齢52.6歳）
 調査期間：2007年4月～2010年12月

自転車通勤者は、自動車・公共交通機関の通勤者と比較すると

- ① 心血管疾患に罹患するリスク…… 0.54倍
 - ② 心血管疾患で死亡するリスク…… 0.48倍
 - ③ がんに罹患するリスク…… 0.55倍
 - ④ がんで死亡するリスク…… 0.60倍
 - ⑤ 全ての死因による死亡リスク…… 0.59倍
- ⇒ 心筋梗塞、脳梗塞などの心疾患で死亡するリスクは半分以上に低下
 がんやそれ以外の死因による死亡リスクも6割程度に低下するとの調査結果

【自転車通勤と疾患及び死亡のリスク】

資料：国土交通省

取組 4 自転車損害賠償保険等の加入及び点検整備の推進

近年、自転車加害者となる事故に関し、高額な賠償額となるケースもあることから、こうした賠償責任を負った際の支払い原資を担保し、被害者の救済を図るため、関係事業者等の協力を得つつ、自転車損害賠償保険等への加入推進に向けた広報啓発活動を実施する。

また、自転車の安全利用を確保し、自転車事故の防止を図るため、日常の点検整備及び定期的な点検整備を促進するため、市内の自転車販売店等と協力し、メンテナンス教室の開催や情報発信を実施する。

保険加入や点検整備だけではなく、自転車乗用時のヘルメット着用についても併せて推進する。



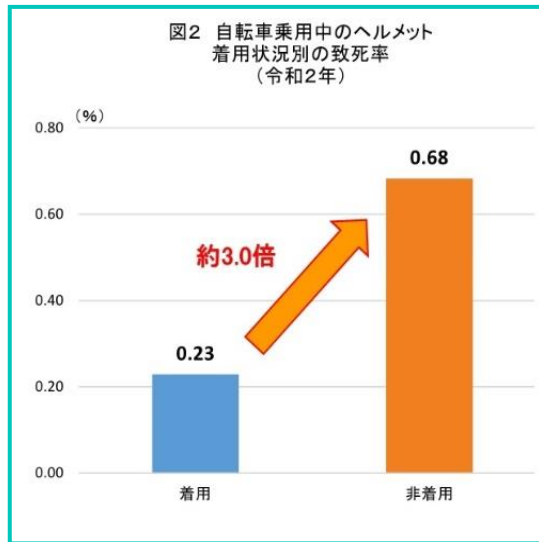
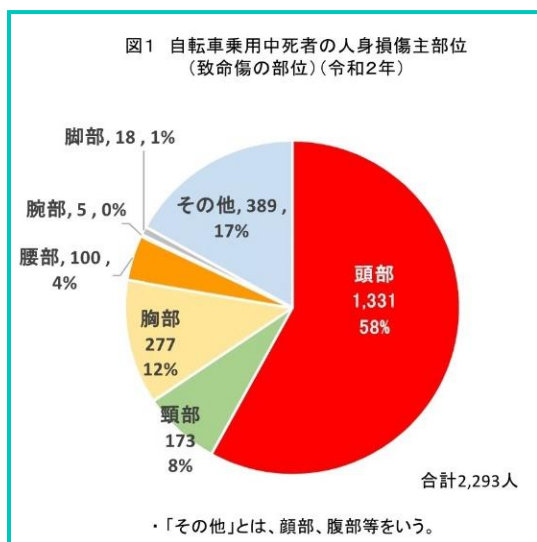
【自転車損害賠償保険等への加入義務化】

資料：埼玉県



【赤色TSマークの取組】

資料：(公財) 日本交通管理技術協会



【ヘルメット着用に関するグラフ】

資料：警察庁

5 計画目標の達成状況の評価

5－1 計画の推進体制

(1) 実施主体と役割

本計画の推進にあたっては、本市の目指すべき将来イメージを共有し、行政、民間団体、事業者、市民等が連携し、計画目標の達成に向けそれぞれの役割を確認しながら継続的に取組を進めることが重要である。

主 体	基本的な役割
行 政	自転車活用の推進に関する総合的な施策を策定し、実施する。 地域の関係者や事業者等との連携を図りながら、自転車活用に関する先導的な取組を推進する。 関係者との連絡調整と市民への情報発信に努め、本計画を総合調整する。
民間団体 事業者等	行政等と連携しながら、民間団体や事業者等が有するノウハウやマンパワーを最大限に発揮して、主体的に自転車活用の推進に取り組む。 事業活動における積極的な自転車活用や、従業員への安全教育や自転車保険の加入推進に取り組む。
市 民	自転車関連法令を守り、家庭や地域等において自転車の安全かつ適正な利用に取り組む。 行政や民間団体等が実施する自転車活用の推進に関するイベントや教室等へ参加・協力する。

(2) 計画の推進と管理体制

本計画の推進及び進捗状況の管理は、「R I D E O N 南魚沼プロジェクト実行委員会」が行う。

また、計画の進捗状況や今後の取組については、スポーツ情報総合サイトや、市ウェブサイト、広報誌、SNS等を活用し、情報発信に努める。

5-2 今後のスケジュール

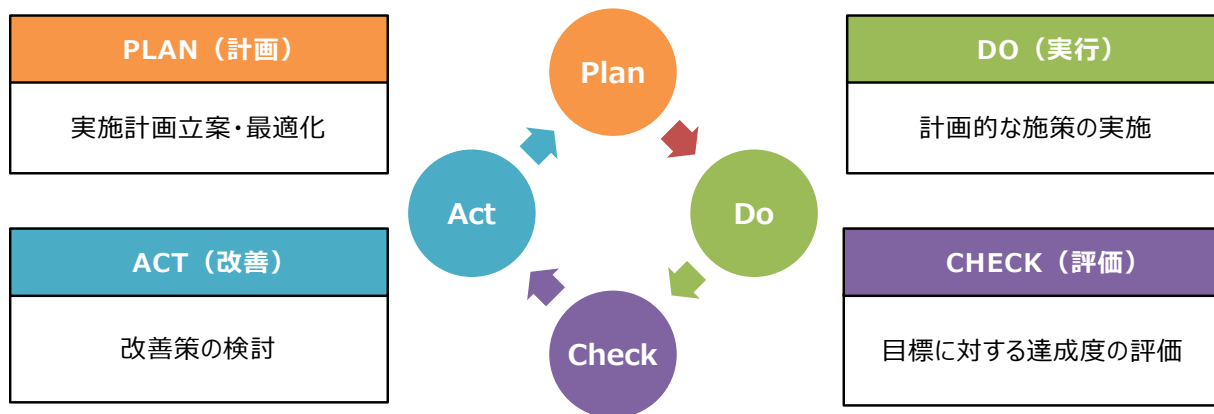
●検討 ○実施 →継続

基本目標	具体施策	主な取組	スケジュール（年度）				
			2021	2022	2023	2024	2025
1 サイク ルスポー ツの振興によ る健康長寿 社会の実現	1 自転車活 用の推進に 必要な基盤 づくり	1 官民連携組織の設立	→	→	→	→	→
		2 広域連携組織の設立	○	→	→	→	→
		3 民間団体及び事業者の活動支援	→	→	→	→	→
2 サイク ルツーリズ ムの推進によ る交流人口の拡大	2 自転車に 優しいまち づくり	1 サイクステーションの整備	→	→	→	→	→
		2 レンタサイクルの普及	○	→	→	→	→
		3 サイクリングガイド育成 及びサイクリングアプリの活用	●	○	→	→	→
		4 サイクルレスキューの体制構築	●	○	→	→	→
		5 自転車関連情報の発信及びイベントの開催	→	→	→	→	→
3 自転車 交通の役割 拡大による 良好な都市 環境の形成	3 安心して 自転車に乗 れるまちづ くり	1 自転車ネットワーク計画の策定及び計画的な整備の推進	●	○	→	→	→
		2 多様な自転車が楽しめるコース選定及び環境の整備	○	→	→	→	→
		3 自転車安全教育及び利用の推進	→	→	→	→	→
		4 自転車損害賠償保険等の加入及び点検整備の推進	○	→	→	→	→

※各取組については、基本目標や具体施策を制限するものではなく、課題に対し広い視野で進める。

5-3 PDCAサイクルによる評価・検証

計画で掲げた目標（Plan）を確実に達成するため、継続的に取り組む（Do）とともに、その取組結果を把握・評価（Check）、問題点があれば見直しを行い（Act）、新たな取組の計画を立てる（Plan）という、いわゆるPDCAサイクルにより事業を進める。



【計画及び施策・事業の実施・見直しサイクルイメージ】

5-4 目標指標（KPI）

目標の達成状況を可視化するため、定量的な指標を定める。

本指標については、毎年度フォローアップを行い、結果や社会情勢を踏まえ、必要な施策や措置について議論するための判断材料とする。

指標名	R 1 現在値 (2019 年度)	R 6 目標値 (2024 年度)	備 考
自転車関連イベントの参加者数	1,370 人	3,400 人	第2次南魚沼市総合計画 後期基本計画指標
市民一人当たり指定管理施設の利用回数	5.31 回	5.38 回	
観光入込客数	3,259,430 人	4,000,000 人	